

令和4年度 第1回 国産材の安定供給体制の構築に向けた中央需給情報連絡協議会 議事概要

- 1 日 時：令和4年6月21日（火）9:30～12:00
- 2 場 所：ウェブ会議（zoom）
- 3 出席者：別紙のとおり
- 4 議事次第及び配付資料：林野庁ウェブサイトの以下URLに掲載
<https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusan/ryutsu/kyougikai.html>

5 概 要

ポイント

- ・ 地区ごとの需給動向、原木・製品生産動向について情報交換し、地区ごとの特色や差異があることが共有された。
- ・ 住宅需要に関して、木材の不足は解消しつつあるが、住設機器の納期遅れや、価格高により施主との調整に苦慮。
- ・ 輸入材については、物流混乱の解消等により在庫は十分にある。米国や欧州の需要停滞や、ロシア・ウクライナ情勢の影響等により、今後の需給動向は不透明。
- ・ いわゆるウッドショックやロシアによる制裁措置等を機に国産材への代替を模索する動きが見られるが、今後、国産材の利用を促進していくためには、国産材の安定供給・安定調達に向けた、適正価格の見極め、地域における需給の情報共有や需要に応じた迅速な原木供給、施設整備、人の確保等が必要。

<主な意見>

(各地区)

- ・ 北海道地区：アルミやステンレス等が使用されている住宅設備機器の入手難かつ価格上昇により契約に結びつかない。木材不足については、合板以外は解消の方向。川中は既存の需要に応えるのに精一杯。梱包材や栈木は北海道で重要な役割を占めており、原木不足の中で原木を高い価格で買えず、どう確保するかが課題。川上は立木価格が上がっており、伐採する数年後に利益を出せるのか不安。現場は危険を伴うので急に増産できる体制にするのは難しい。
- ・ 東北地区：住宅は合板の入手が難しい。ウクライナ情勢により杉集成材・間柱・野縁は見込み需要で売れた。大手加工工場は2～3ヵ月の原木在庫があり、受け入れ制限が始まったところも。ロシア単板の代替としてカラマツ原木の需要があるが十分確保できない。アカマツ原木は単板製造工程がボトルネックとなり引き合いが弱い、活用が今後の課題。地域では、国産集成材の異樹種を含めた横架材利用、ストック機能をどこが担うか、需要に対して供給まで時間を要することが課題。外国人実習生が入ってきて期待。

- ・ 関東地区：住宅設備の調達難があり、資材高騰による住宅への価格転嫁については顧客との調整に苦慮。川中では、一定程度国産材への転換が進み、今後はスギ平角の無垢材の活用が課題。製品の増産については乾燥がボトルネック。合板・LVL工場ではロシア単板の代替材を模索中。出材は概ね順調だが、今後の体制強化については、海外の状況や国内の需給動向に不透明な要素が多く、慎重にならざるを得ない。
- ・ 中部地区；住宅販売量は前年並みだが、住宅設備の供給不足や、今後は価格高で施主が注文を見合わせることも。製材はフル生産、原木調達は順調。合板の供給不足は仕様の変更で対応している。スギのLVLは価格転嫁により、山元に利益還元できている。生産意欲につながるため、現在の原木価格が適正と感じる。今後国産材を増産した場合に需要があるか不安。カラマツは広範囲で足りず生産量確保が課題。資材不足で林業機械の更新に一年を要する。
- ・ 近畿中国：木質の住宅資材は、現在は合板・杉集成柱以外は順調。合板価格の上昇や住設機器不足による工期遅延による経営圧迫。新規受注は昨年12月以降低調。地域住宅において脱炭素に向けた動きがある。川中は、原木確保は順調でフル生産しているが、人材確保・乾燥能力がボトルネック。合板工場での早生樹活用を検討。川上は、国産材の需要増を受け増産に取り組んでいる。今後の課題は、皆伐地確保、素材生産者の育成、運送トラック確保、危険作業を伴うことを踏まえた賃金を見込んだ適正な原木価格の維持。
- ・ 四国地区：桧高値で、出荷量が増え在庫も多いところ。杉は原木不足により引き合い強い。パルプ・チップ用は原料調達が難しいとの認識。川上では、大型トラックが入る林道が必要。県内5者で共同組合を5月に設立し、来年度10名程度の外国人雇用について検討している。皆伐が非常に増えているので生産事業に加えて造林事業への対応も必要。川中はフル稼働。105角だと歩留まりが悪いので、120角需要を増やしてもらえると良い。
- ・ 九州地区：輸出に関しては、上海ロックダウンの影響で中国の港に原木があふれている。年明けは160ドルだったのが現在145ドル、6月以降の需要を見越して輸出用丸太が順調に動いている。川下は、木材価格上昇は賛成であるが急な変動は対応が難しい。部材の不足感はない。プレカットは、稼働率80-90%。住宅資材高騰による住宅の買い控えを懸念。素材生産は10%は増えているが再造林が進んでいない。

(輸入材の状況、川下の動向等)

- ・ 米材について、第一四半期は、S P Fは最低限の受注に留まっていたが、3月はウクライナ侵攻により駆け込み成約。ベイマツの垂木等については現地生産の遅れや物流混乱で契約数伸びず、結果、前年同期比は若干減少。第二四半期は、S P Fは価格面から最低限の受注で、ツーバイフォーは例年通り。垂木は一定程度受注進んだが、トータルでは前年同期比減少。第三四半期は、価格は調整局面に入っており円安や国内在庫が多いことから、最低限の確保に留まると予想。ベイ

マツは発注調整となる見通し。第4四半期は、これまで長期間受注を押さえきいているので、多少伸びて例年程度と予想。

- ・欧州について第1四半期は、欧州マーケットの鈍化と、臨時船を投入し船積みが遅れたものが集中入荷したことにより大幅増。第2四半期は契約残もあるので堅調な入荷。第3四半期は通常一部夏休みに入るので入荷は限定的になるものの、オファー数量がまとまり前年同期比程度と予想。第4四半期は調整局面に入り限定的な受注となる予想。
- ・輸入動向（南洋材、合板、ニュージーランド・チリ材）について、第2四半期は前年同期比増加の方向。第3四半期は、海上運賃が高値、円安、日本の需要の衣服感により、前年同期比で推移と予想。個別にみると、南洋材丸太は市場が限定されているが安定して入ってくる。マレーシアサバ州からの輸入再開による影響。チリからの梱包材の輸入はいわゆるウッドショックの影響は少なく、安定して入ってくる予想。4月までの輸入合板については、中国からの針葉樹合板が増えているが、去年増えたLVLが減った結果、前年同期比10%増。中国の針葉樹合板は、JAS認定製品であるものの、若干品質に心配があり一部のマーケットで流通。
- ・現在輸入材の在庫がピークであるが、物流混乱の解消やロシア問題の憶測からの堅調受注によるもの。円安やロシア問題もあることから、今後市況がぐっと下がると判断することは時期尚早。また、海外の需要停滞の影響は短期的に出るかもしれないが、長期的には、国内では住宅需要に対して供給不足感が続くと予想。
- ・木質住宅資材は、価格は高止まりだが不足感はない。住宅設備は一部不足や遅れがあるが、徐々に解消すると予測。
- ・建材の入手困難は、浴室乾燥機・クロスの接着剤が入らないなど。
- ・合板では仕上げ突板等が入手困難。
- ・地域工務店の受注は減少し、プレカット工場の稼働率も低下。注文住宅の価格高騰で、持家が減り価格の低い分譲に動いている。
- ・ロシアの動向を受け仮需要で3月はホワイトウッド・レッドウッド集成材が動いていたが、今は落ち着いている。その在庫がありロシア材は現在売れ行きが悪い。施主のロシア材に対する拒絶反応は感じられない。
- ・米国・欧州材は現地での需要減で価格の下落傾向が続くと予想。国産材もつられて動く予想。
- ・ホワイトウッドやレッドウッドの集成材は在庫が潤沢にあるので国産材への転換は進んでいない。金物工法に対応した無垢材が少ないことも転換が進まない原因。

（川中、川上の状況）

- ・製材については、コロナ以前の生産量に戻っており、フル稼働状態。住宅着工戸数等との関連から、需要に応じた生産加工をしている状況。
- ・ロシアからの製材品については、半製品が入っていて、原料不足や価格高騰といった動きはない。製品在庫はだいぶ溜まっている状況。
- ・合板については、原木入荷量はコロナ前の水準に近く、昨年秋以降の原木供給増

で在庫が増。スギはそれなりに手当できているが、カラマツ・ヒノキが厳しい。

- ・合板製品は、今年の4月末までの計は前年同期比+0.8%程度。今後、徐々に増えていくことを期待していたが、大規模工場の火災で今後の需給の逼迫を危惧。
- ・中国からの合板輸入が増えている。ロシアからの輸出入が禁止された単板が中国に流れて、合板に加工されて日本に入ってきている。JASを取得しているようだが、品質面での懸念があるとの情報もあるので、今後の動きを注視している。
- ・集成材については、今年の1～6月の生産量累計は前年並みの様子。スギの集成管柱のメーカーの引きは強いが価格の天井感がある。
- ・ラミナは輸入材が7割を占めるが、一部遅れがあるものの順調に入荷があり大きな問題は無い。国産材比率を高めたくても、乾燥施設が導入できない場合がある。
- ・LVLについては、中大規模の建築を中心に需要が増えており、統計上でも表れている。ロシア材単板の代替材確保に向けた検討を進めている会員がいる。
- ・スギとカラマツ等の異樹種のハイブリットLVLを、横架材や床材等これまで国産材が使われてこなかったところに需要拡大していきたい。
- ・今年は天候に恵まれ、素材生産量は順調に推移し、スギは近年最高の販売量。現場はフル稼働。
- ・今後、木材の加工工場の原木受け入れ状況が気になるが、人材育成や施業の集約化を進め、川中・川下の需要に応えられるよう連携して取り組みたい。
- ・国産材の安定供給を行うためには長期的な投資が必要であり、再生林も見越した適正な立木価格が必要。
- ・バイオマス発電施設について、既に稼働している工場の多くは安定供給協定等で必要な国内の原木由来の燃料を確保できているが、一部の地域において不足し、または、今後の供給を不安視する声がある。

(林野庁)

- ・国の補助実績をみると、ある程度の設備投資の規模がみえてくるが、これらの効果は出てくるのは、1～2年後であり、いわゆるウッドショック後の設備投資の効果は今年の後半以降に現れると見込む。
- ・素材生産量や製品生産量は、需要である住宅着工戸数と連動している。令和3年は令和元年の住宅着工数より減少したものの、素材生産量や製品生産量は維持されたことから、輸入材不足の分をカバーしてやりくりした結果と思料。
- ・ロシアからの輸入を禁止している品目について、中国を経由して関税分類が変わらず日本に入ってくるものは違法だが、中国で加工されて輸入した場合は、法規制上違法では無い。製品の品質の話は、エビデンスに基づいて議論する必要。
- ・林業や木材産業において国産材のシェア拡大を進める中で消費者の理解を得ることが重要であり、他産業と比較して死傷率が高い状況を解消するために、作業安全の確保を徹底して欲しい。

(以上)